

### 女子医大ファミリーサポートの取組報告

野原 理子

東京女子医科大学衛生学公衆衛生学（一）教室

略歴：1994年	東京女子医科大学卒業
1994年	医師免許証取得
1994年	東京女子医科大学麻酔科 研修医
1994年	同 衛生学公衆衛生学（一）教室 助手
2001年	学位取得
2006年	Key Centre for Women's Health in Society, School of
～2007年	Population Health, The University of MELBOURNE Visiting Researcher
2008年	東京女子医科大学院内保育所 所長（兼務）
2009年	日本産業衛生学会専門医取得
2010年	労働衛生コンサルタント（保健衛生）試験合格
2010年	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学（一）教室 准講師

#### 【本文】

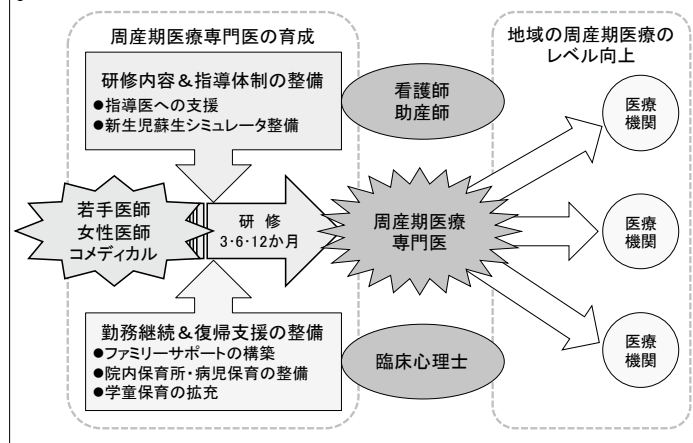
本学は女性医師や医療従事者の勤務継続と復帰支援のための様々な組織体制が構築され、主に付属保育所での待機児の受け入れ、病児保育、学童保育などの施設型の育児支援を行っています。しかし施設型の支援体制のみでは受け入れ可能な人数や支援内容が限定され、様々な状況に応じて就労する医療従事者の支援としては充分とはいえません。

そこで、医療従事者の勤務環境の整備のために、学内にファミリーサポートシステム（女子医大ファミリーサポート）を構築し、地域の方を中心とするファミリーサポーター（提供会員）を募集し、本学医療従事者（依頼会員）の子どもの急病時や放課後の保育、あるいは家事や介護など細やかな支援をしていただくことにより、勤務を中断しなくて済む体制を整えることとしました。

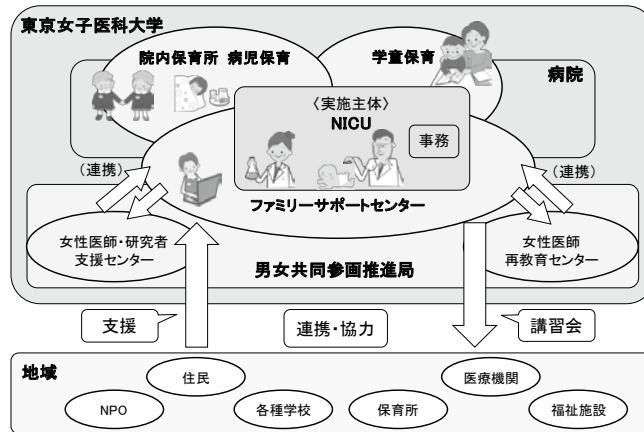
加えてファミリーサポーター（提供会員）の方々に対しては、小児救急に対する知識、病児に対する保育看護の技能などの講習会を開催し、地域全体の育児能力の向上を図ること、さらに、医学生や医療福祉関連の専門学生などのファミリーサポーター（提供会員）の方には、ロールモデルを身近に感じていただき、将来の勤務継続の意志や具体的なイメージを培うことを期待し、女子医大ファミリーサポートを構築いたしました。講演では、本ファミリーサポートの構想から、2009年度の準備、2010年度の取組内容についてご報告させていただきます。

尚、本ファミリーサポートは、文部科学省「周産期医療環境整備事業（人材養成環境整備）」の助成を受け「男女共同参画型NICU人材養成プログラム－地域と支えあう周産期医療－」の一環として行われています。

## プログラム概要



## 実施体制



## 東京女子医科大学 派遣型家事育児援助システム



### 女子医大ファミリーサポート

